

①「上海ディズニーランド」着工。

4/08、上海の浦東新区に、中国本土で初めての「上海ディズニーランド」が着工した。場所は、地下鉄2号線の川沙駅で降りて、タクシーで10分ほど走ったところである。浦東空港からもタクシーに乗れば20分ほどで来ることができる。第1期の開発面積は約3.9平方キロで、約245億元(約3200億円)を投下する。2015年の開業予定で、開業初年度には730万人の来場者を見込む。上海市とディズニーは合弁会社を立ち上げて、運営に臨む。上海市側は上海万博後の上海経済の牽引役を期待し、ディズニー側は赤字経営が続く「香港ディズニー」問題の打開効果を狙っている模様。ただし両者の目論見通り、この事業がうまく進展するかどうかは定かではない。



当初、ディズニーランドは上海市の西方の江蘇省昆山市に建設の予定であったが、用地などの問題があり、浦東新区に決定されたようである。おかげで周辺のマンションは、昨年、2〜3倍に値上がりした。またディズニーランド用地の旧住民たちは、すでに仮設住宅に移転済みであり、現在、ディズニーランドと地下鉄川沙駅の中間に、数十棟のマンションの建設が急ピッチで進められており、土地収用などの問題は起きていないようである。

このディズニーランドの近くに、世界の有名ブランドを終結させた中国最大級のアウトレットモール建設の話が出てきた。4/11、上海市浦東新区商務委員会の陳中茂主任は、ディズニーランドの北東約10キロ、地下鉄2号線遠東大道駅付近に、2013年中の開業を目指すとの方針を発表。

②浦東新区の高額私立学校、突然閉鎖。

浦東新区蘆香路の張江高科実験小学校を借りて開校していた「上海牧羊人国際学校(張江区学校)」が、3/28、突然閉鎖され、校長以下幹部はその日のうちに姿を消した。この学校は2006年に創立され、一時は幼稚園を含め約300人の児童生徒と45人の教師が在籍していたという。学費は年間6万6千元(約83万円)と高額で、生徒は帰国子女などが中心で、2言語で教育を行っていた。すでにこれまで数回、運営資金不足に陥っており、存続が不安視されていた。閉鎖時には40人ほどの生徒が在学していた。また教師たちの給与は数か月間、未払い状態が続いていたので、一部の教師は裁判所に訴える予定であるという。なお、同じ浦東新区合慶鎮にある「上海牧羊人学校」があるが、これとはまったく無関係であり、その学校の責任者はたいへん迷惑していると発言。



閉鎖された「上海牧羊人国際学校(張江区学校)」は、地下鉄2号線の張江高科駅で降りて、歩いて10分の場所で、すぐ側に華東師範学校や有名な中学校、幼稚園などが立ち並ぶ文教地域にある。

③上海環球金融中心(通称:森ビル)、一部を売却。

浦東新区陸家嘴にそびえ立つ森ビルは、2008年に6月に竣工した。それは中国一の高さを誇り、現在、上海の顔となっている。しかしながらこのビルは、当初から地盤の弱さが指摘されていたり、また上海市政府のいやがらせなどもあり、加えて「家賃が高過ぎる」などの問題を抱えており、その将来を危惧されていた。その予測通り、2年半を経過してもビルは空室が目立ち、地下の店舗にはねずみが出没するほどだとテレビで報道されるような有様が続いていた。(詳しくは昨年12/21付けの私のレポート:「万博中国館と上海環球金融中心の共通項」をお読み下さい)。

今年に入って、森ビルは上海不動産取引センター「オンライン不動産」で販売できる物件のリストに入った。同ビルの一部は1㎡=10〜15万円で販売されたという。

なお森ビルを凌駕する上海中心大廈の建設は、2012年4月の竣工を目指して、着々と進行中である。果たして金茂大廈、上海環球金融中心、上海中心大廈の鼎立は可能なのだろうか。



④「虹橋商务区」着工。

上海市当局はこのほど、3/26に上海市西部の虹橋地区の虹橋総合交通ターミナルに隣接する地域で、大規模商

業エリア「虹橋商務区」に着工した。4/10、市当局は、大規模商業エリア「虹橋商務区」の全体計画を正式に発表した。同計画は、青浦・閔行・嘉定・長寧の4区にまたがる広大なもので、86.6平方キロとなり、地域内の常住人口は53万人を想定。青浦には大型コンベンションセンターを中心にして、貿易サービス、オフィス、カルチャー産業、金融、教育、研修などの機能を集約する。閔行には中高級住宅、医療、教育、文化、スポーツ施設、ビジネス、ハイテク産業の集積を図るほか、嘉定では電子商取引、エコ・レジャー産業、スポーツ・カルチャー産業の発展を目指す。長寧はメインエリアとして、主に市政・公共施設を配置する。なお、2016年の完工を見込み、二酸化炭素排出量の少ない「低炭素エリア」を目指しており、建築物には省エネ設計を採用する方針。

⑤虹橋長距離バスターミナル、閑散。

上海市西部の虹橋地区の虹橋総合交通ターミナル内の虹橋長距離バスターミナルの利用客は、当初の予想を遙かに下回り、1割前後で推移している。もっとも利用客が多くなると推定された春節前後でも、1日平均1400人にとどまり、このターミナルの1日の輸送量=1万3千人の1割強であった。このバスターミナルは昨年7月に営業を開始、虹橋空港、虹橋鉄道駅、地下鉄2・10号線などに連結しており、その利便性は高い。しかしながら開業当初から、利用客が1日当たり700人ほどで、1000便の発着が可能なバスも、170便ほどにとどまっており、予測が大きく外れており、早晩、赤字が問題視されるようになっていっている。

ただし関係者は、「北京～上海高速鉄道」の開通や「虹橋商務区」の開発に期待し、強気の姿勢を崩していない。

たしかにバス駅や待合室は閑散としており、夜間になると人通りも少なくなり、怖い感じさえる。



⑥高級スーパー開業するも、閑古鳥。

香港の大手小売りチェーン「百佳」が、長寧区古北地区の紅宝路で、高級スーパー「TASTE」をオープンした。古北地区に住む日本人などの外国人を対象にしたスーパー。マンションの地下1階にあり、経営面積は4300㎡、投資額は2000万元、取り扱い商品は2万5千点。「百佳」はこのような店舗を、今後7年間で上海に10～15店、開設する予定であるという。

店舗全体の雰囲気は、日本のスーパーよりも清潔であり、陳列もしっかり整頓されていた。カートも小さく、動かしやすいものだった。野菜なども全部、ラップしてあるし、ご丁寧にそれぞれに生産国の国旗が貼ってあった。残念ながら原発事故の問題を考慮してか、野菜や肉魚類に日本産はほとんどなかった。醤油や味噌などには日の丸が付いたものが多かった。それでもお客さんが極めて少なく、私も含めて10人前後しかいなかった。値段はカルフルなど比べて、1.5倍というところ。少々高額でも、安心・安全を売り物にして儲けようという商法だと見受けしたが、とにかくお客さんの数倍の店員という状況では、とても利益が出るとは思えなかった。



⑦「着色中華饅頭」騒動。

4/11、中国中央テレビ局(CCTV)が、上海の地場スーパーなどで売れ行き好調の「中華饅頭」に、着色料や無許可添加物が使用されており、人体に有害と報道。上海市当局は、4/13、食品会社「上海盛祿食品公司」の代表を含む5人を拘束し、同時に同社の食品生産許可を取り消した。同社はトウモロコシ饅頭の黄色を出すために着色料を使用し、なおかつ無許可の保存料や甘味の添加物を大量に加えていた。またスーパーで売れ残り返品されてきたものを、水に浸しミキサーで攪拌し、さらに小麦粉を加え、饅頭作りの原料にしていたという。その製造工程も不衛生で、従業員等は素手で作業しており、記者の取材に対して、従業員自身が「この饅頭は死んでも食べない」と語った。この饅頭は、上海市内の地場スーパー10社、30店舗で販売されていた。当局は、4/12夜、スーパーの店頭から32,228個を回収したが、すでに334,864個は売却済みで、市民の胃袋に収まってしまっていたという。

4/13朝、私もすぐに問題の饅頭を買ってみようと思い、スーパーの店頭を探し回ったが、みつからなかった。

⑧地下鉄11号線、自動運転開始。

3/25付けの上海の新聞に、地下鉄11号線で自動運転を試験的に開始したという記事が載った。私はカナダのバンクーバーや愛知万博の公共交通で、無人運転の列車に乗ったことがあるが、中国での無人運転は安全面から考えて、いささか時期尚早ではないかと思った。4/13、私は地下鉄11号線の江蘇路駅に行き、無人運転の現場を実際に見て

みようと考えて、ホームの先端で列車の到着を待ち構えた。しかしどの列車にも、必ず運転手が乗り込んでおり、無人運転らしき様子は見られなかった。そこで列車から降りてきた運転手に、「自動運転ではないのですか」と聞いてみると、「まだテスト中で、正式な自動運転は始まっていない」との答えが返ってきた。重ねて私が、「それではいつから無人運転が始まるのですか」と聞くと、その運転手は面倒くさそうに、「自動運転が正式に開始されても、それは無人運転ではなく、必ず運転手は乗ります」と答えて去って行った。それ以上の質問はできなかったが、たしかに「列車制御システムを整備し、自動運転を行うことが、即、無人運転になることではない」ということ、つまり今回の私の危惧は早とちりであったということがわかった。

⑨地盤沈下事故発生。

4/13夜、上海市内の共和新路の宝山万達広場の工事現場で、地面が500㎡ほど陥没した。現場では、ただちに工事を中止し、数十台のトラックで数百トンの砂や砂利を運び、その穴を埋めたが、なかなか埋まらず12時間後に、やっと埋まったという。原因は不明。すぐ隣には新築の高層マンションが建ち並んでおり、住民は不安そうな顔で、埋め立て現場をみつめていたという。

以上